



平成 30 年 10 月 12 日

各 位

会 社 名 アクサホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 久岡 卓司
 (JASDAQ・コード3536)
 問合せ先 取締役経営管理部長 新藤 達也
 (TEL. 078-335-8844)

業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

平成 29 年 10 月 16 日に公表した平成 30 年 8 月期通期連結業績予想(平成 29 年 9 月 1 日～平成 30 年 8 月 31 日)の業績予想を修正するとともに、特別損失を計上することとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

平成 30 年 8 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 29 年 9 月 1 日～平成 30 年 8 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想(A)	百万円 15,260	百万円 305	百万円 174	百万円 151	円 銭 5.01
今回修正予想(B)	14,484	212	130	257	8.49
増減額(B-A)	△776	△93	△43	105	—
増減率(%)	△5.1	△30.5	△25.0	69.6	—
(ご参考)前期実績 (平成 29 年 8 月期)	14,359	262	151	182	6.16

2. 修正の理由

通期業績予想につきまして、売上高は卸売セグメントでは前期を大幅に上回る見通しであるものの、小売セグメントにおいて、収益体質強化のため改善策を実施してきた店舗のうち、市場環境や将来キャッシュ・フローの状況を鑑み、3店舗の閉鎖並びに1店舗の統合による合理化を図ったこと等により売上高を押し上げるに至らず、小売セグメント及び卸売セグメントの合計においては、売上高の業績予想を下回る見通しとなりました。

各利益につきましては、上期において、経済情勢の変化や体感物価の上昇等による消費マインドの低下が懸念されるなか、需要喚起のため価格訴求による販売促進に取り組んだ結果、売上総利益率の低下に加え、広告宣伝費が増加したことで、営業利益及び経常利益ともに下回りました。一方で、下期において、付加価値の高い商品による価値訴求の強化や値入率の改善に取り組むことで売上総利益を押し上げましたが、上期の落ち込みをカバーするには至らない見通しとなりました。

また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、後述の特別損失を計上するものの、平成 30 年 3 月 15 日付「子会社における固定資産の譲渡、特別利益の計上及び借入金の返済に関するお知らせ」にて公表いたしました固定資産の譲渡益及び当社の連結子会社であるアクサ株式会社の繰延税金資産の回収可能性の見積り変更にとともなう法人税等調整額(益)の計上により、業績予想を上回る見通しとなりました。

3. 特別損失の内容

(1) 減損損失

当第4四半期連結会計期間において、収益性の低下に伴う投資の未回収分として、43百万円を減損損失として計上いたします。これにより、当連結会計年度における減損損失は111百万円となる見込みであります。

(2) 訴訟関連損失

平成30年8月16日付「訴訟の判決に関するお知らせ」にて公表いたしました、旧株式会社雑貨屋ブルドッグ（現ACリアルエステイト株式会社）の元取締役に対する損害賠償請求訴訟の第一審判決に伴い、本件訴訟における弁護士費用20百万円を訴訟関連損失として計上いたします。

(注) 上記の予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上